

Contents

- ▶第46回 毎日社会福祉顕彰 受賞報告 1
- ▶若者支援に向けて・茗荷谷クラブの紹介 2
- ▶お誘いのご案内 3
- ▶ご寄付に感謝報告 3
- ▶2016年度収支予算書 3
- ▶Center News 4

第46回 毎日社会福祉顕彰 受賞報告

(平成28年10月21日)

この度、青少年健康センターが第46回毎日社会福祉顕彰（毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団主催、厚生労働省、全国社会福祉協議会後援）を受賞いたしました。

毎日社会福祉顕彰とは、全国の社会福祉関係者および団体のなかから、とくに優れた功績をあげ、社会福祉の発展向上に貢献している個人あるいは団体に与えられるものです。

今回の受賞は当センターの他にも大阪府中央子ども家庭センター所長であった家常恵氏、鳥取で障害者の社会参加活動を支援している特定NPO法人「地域活動支援センターおおぞら」が受賞いたしました。

青少年健康センターが評価されましたのは、“社会問題となる以前より不登校・ひきこもりの問題に取り組み、30年以上実施してきた継続性”と“医学的・心理的知見を持ちながら支援に臨んでいるという専門性”

を認められた上での受賞でありました。

当センターを代表して会長齋藤友紀雄が登壇し、「青少年健康センターはここまで、大勢の方々の支援を受けて今日に至りました。皆様のお力なくしてはここまで継続できなかったとっております。心から感謝いたします」と、日々のご支援に対する感謝の気持ちを述べました。

私ども青少年健康センターは今後とも、生きづらさを抱えた若者たちや、その家族の皆さま、長く社会のつながりの見えない方々のお力に添えますよう、努力し研鑽してまいります。これからも歴史ある法人としての責任を果たすべく職員一同、末長く事業に励んでいく所存です。

これまでの皆さまからいただきましたお力に感謝いたしますとともに、引き続きご指導・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。(写真提供 毎日新聞社)

第46回 毎日社会福祉顕彰贈呈式



毎日新聞東京社会事業団理事長 丸山昌宏氏より
顕彰を受ける齋藤友紀雄会長



各団体の受賞者の方々と共に

近年、雇用環境の変化、地域の養育力の低下、いじめや自殺問題等、若者を取り巻く環境が変化しており、国では平成21年7月に「子供・若者育成支援法」が成立しました。従来の縦割な行政の対応では限界があり、特に若者たちが生き生きと社会参加をし、社会を担う存在として生きていくことが困難になっています。中学の義務教育を終えると、高齢者になるまで若者世代は、「自己責任」という名のもとに支援を受ける手立てもなく、ヘルプを言うこともできずにきました。ひきこもりの若者の数の多さ（平成28年9月内閣府推定54万人）を見れば、これはすでに若者個人や家族の問題に帰すべきものではないことが明白です。

若者は多様であり、不登校、ひきこもり、10代の親、子供の貧困問題、発達障害、精神疾患などそのありようはさまざまです。それにもかかわらず、私たちは、多様性を認めず、困難や生きづらさを抱える若者とそうではない若者を分断したり二分しては来なかったでしょうか。

そうすることなくひとつの個性と多様性を認め、全ての若者を視野に入れ、「今まさにこの社会を生きる主体であり、大人との共に社会をつくる存在」（世田谷区青少年協議会報告書より）である若者に、共にパートナーとして寄り添いつつ支え、かつその主体性を削ぐことなく生活していくことが求められています。

ひきこもり支援を27年以上行ってきた「茗荷谷クラブ」は、その支援のあり方や理念を、行政と連携することによって、活かし、すべての若者が生きやすい社会をつくるために、今まさに大きな責任を負っています。平成26年度に文京区、世田谷区、平成27年度に台東区の委託を受け、ひきこもり等生きづらさを抱えた若者やその家族の最初の相談窓口として、そして居場所、就労などの包括的な支援に向けて日々目の回るような忙しさです。それぞれの行政機関によって、体制も予算も異なり、どのように、官・民が連携をしていくか、互いにその良さと利点を区民のためにどのように生かしていくかが大きな課題となっています。

若者のことは若者が一番よく知っています。共生社会を目指す中で、必要であるはずの支援の網の目から、その穴から落ちてしまう人が少しでもいなくなるように、何が必要で、何が求められているのかを教えてくれるのが、まさに困難を抱えた若者たちやその家族の方々です。私たちはそのような方々をニーズマスターと呼び、まず

は彼らの声を行政や一般の方に届け、ひきこもりへの理解と、彼らが鳴らしている警鐘を伝えていくことが非常に大事であると考えてきました。委託事業が3年目を迎え、少しずつ、その発信が根付いてきているように感じます。まずは大人の持つ「若者観」を変えていく必要があります。ひきこもりについての偏見や誤解を解いていかなければなりません。

30周年を迎えた青少年健康センターの目的は、若者に対する多面的な支援であり、すべての若者の未来に向けての支援です。支援の難しさは、まさに支援の多面性と複雑さであり、多様な支援機関や関係者との連携・協働が必要になってきます。若者たちが、自分たちの世界に閉じこもることのないよう、私たちが身を持って、広い社会へ発信し、関係をつなげていくことが求められています。今後も、多くの方々のご支援や、ご寄付、ご助言をいただきながら、若者たちの未来へ向けて精進してまいります。どうぞよろしくお願い致します。

茗荷谷クラブの紹介

茗荷谷クラブでは、“居場所”を中心に利用メンバーの方々のニーズに応え、社会参加準備支援、演劇ワークショップ、サッカー活動、ボランティア活動、企業連携におけるアルバイト請負等を行っています。“居場所”は人間関係に何らかの困難を感じ、何とか自信を回復したい方が、仲間や様々な活動を通して自分自身を取り戻すための場です。ディスカッションなどのプログラム、一泊旅行やスポーツ大会などのイベント、日々の営みの中、喜び、楽しさ、悔しさ、失望などなど様々な感覚にあふれています。その基本となっているのは、ありのままの自分でいていい、大丈夫という感覚の醸成です。それは社会参加・参画しようとする全ての方々の心の土台となります。スタッフはほぼ全員臨床心理士で、多くの相談やお話を聞かせて頂きながら、その方のペースに合わせて進めていきます。また、「茗荷谷クラブメンタル部門相談室」では、その方に合った心理療法、相談、各種心理テストなど行っています。是非、お待ちしております（文京区、台東区の方は12回まで無料です）。

実践的「ひきこもり対策講座」へのお誘い

平成10年5月から開講しています。講師の斎藤環先生は、ひきこもりの第一人者として多忙な日々をおくられ、病院で新患対応は現状、とても難しいとのこと。そういう点で、この講座で、先生と直に質疑応答できるというメリットは大きく、ぜひご参加下さい。(原則 月に1回開催)

会費制度の改定についてのご案内

平成28年9月より、当センターは、維持会およびSW会等の会員の方に対して、実践的「ひきこもり対策講座」や思春期カウンセリング講座の参加費や受講料は半額とさせて頂きました。

また、「茗荷谷クラブ」の入会金や「メンタル相談室」の割引等が得られます。

奮って会員になられて、上記、特典をご利用下さい。

ご寄付に感謝報告 (平成28年7月～11月)

青少年健康センターは大勢の個人の方々のご献金、および助成団体はじめ会社などの助成金・ご寄付、補助金などによって支えられています。ここにこころから感謝申し上げてご報告いたします(敬称略)。

【正会員】

河野 治子 倉島 徹 倉本 英彦 笹原信一郎 関川 俊男 高橋 清久 高山 智 中島 聡美
真下 テル 米沢 宏 大塚 芳子 (平成27年12月29日) 計220,000円

【維持会員】

伊藤 三恵 小鹿 敏夫 生出 美穂 黒石美江子 祁答院一昭 佐藤 悦子 佐藤 晶昭 鈴木 邦一
中村 弘 永藤 素紀 藤井 幸子 福山なおみ 松平 明子 松本 透 山本 弘夫 柳下 弘
計160,000円

【SW会員】

SW会費+維持会費 計255,000円
SW会費のみ 計480,000円

【寄付・個人】

石村 愛子 井出 道子 井元賀津子 稲村 優子 榎本美津恵 大野レイ子 河野 治子 河下 浩信
祁答院一昭 小西 光代 鈴木 隆之 高山 智 千葉 泰子 西浦加代子 橋口あつ子 波多野瑞穂
藤本ヘレン 丸山 邦子 山本 弘夫 花井 一代 匿名希望3名 計7,351,000円

【寄付・団体】

一般財団法人日本メイスン財団 公益財団法人JKA
毎日新聞東京社会事業団(毎日福祉顕彰を含む) 公益財団法人原田積善会 計6,103,940円

公益社団法人 青少年健康センター 2016年度 収支予算書

(単位:円)

(1) 収入の部	
科目	金額
1 基本財産運用収入	0
2 会費収入	600,000
3 寄付金収入	9,000,000
4 補助金・助成金収入等	5,250,000
1～4 計	14,850,000
5 事業収入	86,420,000
研修講座等	14,400,000
「茗荷谷クラブ」「メルクマールせたがや」	71,960,000
「クリニック絆」	60,000
期間収入合計(A)	101,270,000

(2) 支出の部	
科目	金額
1 管理費	16,190,000
2 事業支出	85,080,000
研修講座等	15,690,000
「茗荷谷クラブ」「メルクマールせたがや」	64,810,000
「クリニック絆」	4,580,000
期間支出合計(B)	101,270,000
当期収支差額(A-B)	0
次期繰越収支差額	0

Center News

(敬称略)

平成28年 (2016年)

9月

- クリニック絆 電話相談員研修 24日
講師：大井雄一 (筑波大学)
- 実践的ひきこもり対策講座 25日
講師：斎藤環 (筑波大学教授 当センター参与)
於茗台アカデミー
- 基礎講座 中期
講師：藤堂宗継 (臨床心理士 歌舞伎町クリニック
カウンセラー) 28日から5回

10月

- 実践的ひきこもり対策講座 15日 午前 (理論編
文京区主催) 於文京区民センター
- シンポジウム 「オープンダイアログ ～日本での
展開～」 15日午後 於東京総合美容専門学校
シンポジスト：斎藤環
ヤーコ・セイックラ (ユバスキュラ大学教授)
信田さよ子
(臨床心理士 原宿カウンセリングセンター所長)
向谷地生良
(ソーシャルワーカー 北海道医療大学教授)
於東京総合美容専門学校
第1部 スカイプ・ディスカッション
ヤーコ・セイックラ氏と東京の会場を結んでの
ディスカッション。
第2部 パネル・ディスカッション
コーディネーターの斎藤先生の司会で、日本に
おけるオープンダイアログの展開について活発な
ディスカッションが行われた。
- 毎日社会福祉顕彰贈呈式 21日 於如水会館
授賞式では顕彰状と賞金100万円を授与。(詳細は1頁)
- クリニック絆 電話相談員研修 28日
講師：齋藤会長

賛同パートナーとして登録



当センターは、競輪の補助を受けております。

死ぬほど
つらいときに...

自殺、ひきこもりなど心の危機の時に
TEL 03-5319-1760
クリニック絆

11月

- 実践的ひきこもり対策講座 13日
午前、午後：家族会 於茗台アカデミー
- 杉原泰雄氏 (スコラカントウム主催者) 告別式 15日
センター創立時からチャリティ演奏会等をもって30
年あまりご支援をいただいた。会長出席
- 特別講座 中期 「最近のうつ事情について再考する」
14日 「うつ病概念の変遷とうつ病増加の社会的原因」
講師：吉野聡
(新宿ゲートウェイクリニック院長)
- 25日 「最近のうつ病事情 ～社会適応不全の病理～」
講師：宇佐見和哉
(新宿ゲートウェイクリニック副院長)
於文京区シビックホール
- 理論講座 中期 「ひきこもり家族のライフプラン4」
30日 「働けないお子さんのために、今、親ができる
こと」
講師：畠中雅子 (ファイナンシャルプランナー)
於日本社会事業大学文京キャンパス

12月

- 第4回センター・チャリティ・バザー
3日 於センター
- 実践的ひきこもり対策講座 4日 於筑波大学
- 理論講座 中期 「ひきこもり家族のライフプラン4」
7日 「働けないお子さんのための公的制度の活用について」
講師：浜田裕也 (ファイナンシャルプランナー)
於日本社会事業大学文京キャンパス

欲しい未来へ、
寄付を贈ろう。



Giving
December

寄付月間 2016

寄付月間とは

NPO、大学、企業、行政
などで寄付に係る主な関
係者が幅広く集い、12月
協働で行う全国的なキャ
ンペーンのことです。